

入 賞 作 品

一言で一気に世界が広がった気がしました。小さい頃から「自分の意見が正しい」と思っていた私。しかし、他の人の意見に耳を傾けると、自分の「正解」がぐらりと揺らいで、新しい答えが見えてくると知りました。完成したテレビ番組の中の「通知表」は、>Hのアバターが、「大丈夫。次はここをがんばればできるよ」と、温かい言葉をくれるものです。私たちはその案を、番組として校長先生に提案しました。この動きが広がり、小津中学校では通知表の見直しが動き出しています。その後、OMの口主催の通知表についての国際ワークショップにも参加することに。そこで、私がどんな意見も言ってもみんな領いてくれて、認めてくれました。私の学校の校則見直し活動はルールメイキングと呼ばれています。そこには私の意見を「それはいいね」と受けとめてくれる仲間たちがいます。ただ

認めるだけでなく、それがどういう意味？「本当に自由にして大丈夫かな」といって、たたくさんの自分とは違う意見も伝えてくれます。そんな仲間といることで、私も少しずつ変わって、たががします。ある日、母がこんなことを言いました。「自分と違う意見でも相手を理解しようとする。それが多様性ってことなんじゃないかな」その言葉が私の「かたさ」をさらにやわらかくしました。まるで、木の幹のように固かった私の考え方に、たくさんのやわらかい枝葉がはびいてくるように。通知表は「変えられないもの代表」だと思っていたけれど、実は変えられるものでした。そして、仲間との対話が、私自身の心も変えてくれたのです。「変えられない」と思っているものは、自分の思い込み。



世界がピタッとハマる時

泉大津市立小津中学校 3年 ^{すが}菅 ^{あきと}耀斗



世界がピタッとハマる時
菅 耀斗

「え、英語も課題提出今日かよ。」
朝起きて、国数理体社英。放課後、委員
会、部活、スマホ、塾。スマホ、スマホ。
大人も似たようなものです。Pixel、Pixel、
Slack、Zoom、YouTubeで寝落ち。毎日
とにかくやることと「情報」に追われて
いる。これが私が知る日本の現状です。そん
なお疲れのみなさん。まあ、ここはかとつ、
未来の担い手である中学生の話を聞いてくだ
さい。

私の学校には「共創プロジェクト」という
一風変わった授業があります。生徒が自分の
「好き」や「得意」からプロジェクトを企画
し、仲間と活動を進めます。私の企画「広告
代理店プロジェクト」びつくとたポスターの
一つは、泉大津市の仏教美術の一斉公開イベ
ントについてで、このポスターは日本最大の
仏像サイトにトップ掲載。中学生企画のイバ

ントに全国から六百人以上を集めることに貢
献しました。

私は「絵を描くことが好きなのでもでした。
そこで一年生の時、この広告のプロジェク
トを立ち上げたのです。」
「ポスターやチラシを作らせて下さい！」
初めて各プロジェクトのリーダーが集まっ
たミーティングで、一年生だった僕は呼びか
けました。すると、注文が殺到し、さらに校
外からの依頼も届き、活動は広がり続けま
す。

実は、最初はうまくいかないこともありま
した。自分のイメージだけで作ってしまうと、
いざ発表の時に印象と違ってしまうことに気付
きます。伝えたいことを全部入れると、ざっ
ざっやしたポスターになっちゃいました。
そんなことをあり、本格的にデザインに興味
を持ち、勉強しました。そして試行錯誤の結
果、分かったことがあります。

デザインには、「ピタッとハマる瞬間」が





笑顔の持つ力

清風南海中学校 3年 ^{しろつ}城津 ^{あやね}文音

笑顔の持つ力
大阪府 清風南海中学校 3年 城津 文音
進学期、リラス替え、進学。私たちが生徒徒には、新しい環境に身を置くシキエーションがたくさん訪れます。そして、大人になつてからモキツと。年度はじめの環境が変化するタイミングは、特にドキドキするものぞす。皆さんにも、そんな経験がたさんあると思ひます。そういつとま、笑顔が挨拶はごまごまですか？笑つてフミニケーションを築けていますか？
現代の日本人は、あまり笑わなくなつているといいます。ストレスの多い社会で、笑うことのびまほ機会が少ないのかもしれませんが、また、日本人は海外の人に比べてシャイで、なかなか感情を表に出そうとしません。SNSが発達して、顔を合わせず喋るごがごまるようになって、たの要困の一つだと、私は考へています。

しかし、笑顔は自分の気持ちや他人に伝えることごびま一番簡単で、分かりやすい手段ごびす。
小学生の頃、私は人生ご初めて転校を経験しました。新しい学校に行く前日、不安と緊張ご胸ごび。少しの期待もありました。友達がごび迎えた転校初日。ほ、まり言つて、そうして迎えた転校初日。ほ、まり言つて、私は失敗しました。自己紹介のとま、緊張して何も言えなかつたのです。笑顔ごびごありませんでした。ワラスイトの視線が痛くて、たごび逃げたか、たごび覚えごびます。そして、そんな私を輪に入水ごび親切な子ごびませんでした。その経験が足枷となつて、私は学校ごあまり喋ることごびまなかりました。私ごび胸ごび痛くなりました。今振り返つてみると、あの頃の私が笑顔ごびたごび全くなかつたように思ひます。

始めました。そごもやはり、自己紹介イベ
 ントが待ち受けのしました。
 一またあの時のようなことが起こったがどう
 しようし
 二く分未るなと願ったも、自分の番は回って
 ます。嫌だなと思いが、立ち上がって
 教室中を見渡したとき、ふと一人の女の子と
 目が合いました。そして、驚いたことにその
 子は私に笑いかけてくれたのだ。そのとき
 私はその子に「君はここにいていいんだよ
 と言ったも分ったよな気がして、緊張がほ
 ぐれ、自分で信じられなほど自然体で話
 すことができました。それから、その塾は私
 にとって最高に楽しい場所になりました。学
 校は依然として辛い場所でしたが、塾に行け
 ば友達がいりました。学校でも少しづつ友達が
 できました。笑うことも増えました。幾度の転校
 を経て入学したこの学校で私が今楽しく過
 せているのは先生方やクラスメイトのおかげ
 です。あのときの経験も少しは役立ってこ

れているのかもしれない、と私は考えてい
 ます。
 私の体験は、新しい環境で過ごすとき
 限った話です。しかし、笑顔が大切なのはそ
 の時だけではありません。いつも一緒にいる
 家族や友達に、毎日笑いかけてみてくださ
 います。周りの人は皆、あふたから元気をもら
 っています。皆さん、部活や勉強で落ち込んで
 いるとき、友達の笑顔に元気づけられたことは
 ありませんか？失敗しても、誰かが笑って励
 ましてくれたら、安心しませんか？
 笑顔は小さなことかもしれませんが、ま
 と大きな力を持つことができます。私が塾の女
 の笑顔に救われたように、私たちも自分の笑
 顔で誰かを励ますことができます。私もそれな
 のです。愛想笑いではないです。私自身、人見
 知りだと話すことが得意ではありません。
 しかし、続けられたいとすれば、本当の笑顔に
 なるはずですよ。初めは小さな一歩で大丈夫
 ですよ。勇気を出してその一歩を踏み出してま



あなたの扉を開く鍵

泉大津市立小津中学校 2年 川上 優衣



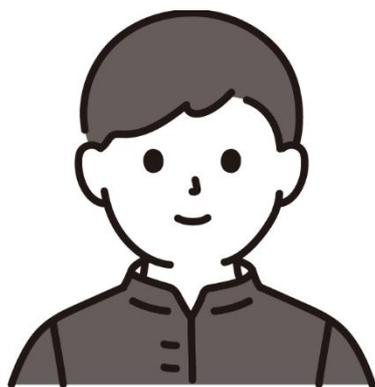
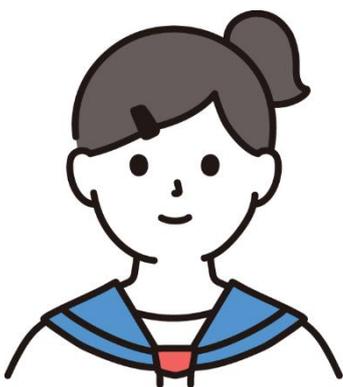
あなたの扉を開く鍵
 大阪府 泉大津市立小津中学校 二年
 川上 優衣

「私なんか、何の役に立たないから。」
 そう思い続けました私は、自分の「好き」や
 「得意」を誰にも見せず、本当の気持ちをし
 まい込んでいました。小学校の頃から自信が
 なくて、心に鍵をかけたのでした。私は、
 そんな自分が好きではありませんでした。
 でも、中学校に入り、私の小さな試みと出
 会いが、自分を大きく変えてくれました。
 ぴかぴかの制服。ワクワク、ドキドキ。中
 学校で初めての始業式。式の一番最初に前に
 立ったのは、先生ではなく、「ルー ルメイキ
 ンガ」という校則見直しの活動に参加してい
 る先輩でした。
 「校則は生徒たちで見直し、変えていきます。
 目を輝かせながら語る先輩。その姿は、私が
 今までに見た誰よりも、生き生きと眩しく見
 えましました。

「私も、あんな風になりたい。」
 そう思いました。けれど、私は一歩を踏み出
 すことができませんでした。
 「どうせ私なんか役に立たない、自分にま
 たブレキをかけたのでした。
 ある日、部活の先生が言いました。
 「A Iのキャラクターと話す英会話アプリの
 ベイタ版っていうのがあるんだけど、体
 験してみない？」
 A Iとの英会話を体験した私は、後日の意見
 交換に備えて、感じたことやアイデアを整理
 し、大好きな絵も添えて改善レポートを書き
 ました。でも、そのレポートを誰かに見せよ
 うとは思っていませんでした。
 「どうせ、こんなの役に立たない」と思って
 いたからです。
 けれど、それを見つけた先生が、こう言っ
 たのです。
 「優衣、これすごいなあ。めっちゃくちゃいい
 よ。企業に送っていい？」

「いやいや、企業の人が見たら怒り出すから
 い、今メ出ししちゃってさんだけど」
 信じられない気持ちでした。先生はレポートを本当に企業に送信してしまいました。
 「全社買でレポートを共有いたしました。」
 本当にありがとうございます。
 なんと次の日、感謝のメッセージが届いたの
 のです。先生は続けて、こう言いました。
 「優衣はアイデアをまとめた、絵を描いた
 りするのが得意なんやね。」
 これが、私が初めて、自分の「得意」に気
 づいた瞬間です。
 「私の得意」が誰かの役に立っている。
 それをまっか、私は変わりました。
 一年生のときに諦めた「ルールメイキング」
 活動。今度は自分の意思で挑戦しました。そ
 の後、AI企業と連携するOECドレいう機
 関から「AIチームの生徒座長」というす
 ぎに依頼を受け、「私ならできる」と引き受け
 ました。さらに、能登半島地震の教育復興メ

ンバーとして被災地を訪れました。その光景
 に私は言葉を失い、この現実をみんなに伝
 えた。という想いを芽生えさせました。学
 校の復興に向けたプロジェクトとして、AI
 英会話アプリを使用することと決まりました。
 私は、校内でAI英会話アプリのキック
 スタートを生徒の手でデザインするプロシエクト
 を立ち上げました。多くの生徒が私の発表に
 込めた「想い」を真剣に受け取ってくれまし
 た。そのとき、胸が熱くなりました。
 「私の得意」を、誰かがちゃんと見てくれ
 ている。入学前より、自分の「得意」を誇らしく思
 えるようになった。私は、今の自分が大好きに
 なりました。
 あのレポートと、私の「得意」を見つけて
 くれた先生がいたことで、私の心が動き出し
 たのです。
 だから今、私は伝えたい。自信が持てず、
 「私なんか」と思っている人がいるなら、そ



「声の責任」

清風南海中学校 1年 ^{やまだ}山田 みつほ

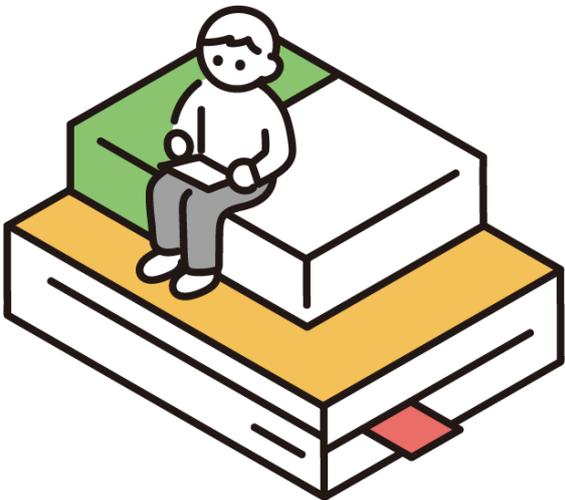


「声の責任」
 大阪府 私立清風南海中学校 1年 山田 みつほ
 小学生の時に訪れた香港。私はその夏の体
 験を、今でも鮮明に覚えています。二〇一九
 年、当時香港では、中国本土が支配力を強め
 るための法律改正に反対し、民主化の維持を
 求める大規模なデモが毎週起こっていました。
 観光で訪れる人々は、デモ行進が予定されて
 いる日時や場所が至る所で知ることができると
 ようになっ、ていて、観光とデモの住み分けが
 なされてい、るはずでした。
 家族で繁華街の定食屋さんで夕食を食べて
 いた時のことです。突然、通りで雄叫びのよ
 うなシュプレヒコールと、地鳴りのような足
 音が響き渡りました。甲高い叫び声も聞こえ
 ます。今日はこの辺りでデモの予定はないは
 ずです。店の人が急いでシャッターを閉め、
 私たちは食事を放り出して息を潜めました。
 格子の隙間から暴徒と化した集団が大声で叫

びながら走り抜けていく姿が見えました。
 「時々あるんです。すぐ帰ったほうがいいで
 す」。周囲が静まったのを見届けて、店の人が
 教えてくれました。お客さんは誰も返事がで
 きません。もう食事どころではありませんが
 した。騒然とした表通りを家族で走り抜け必
 死にホテルまで帰ると、正面玄関は厳戒態勢
 で封鎖されていて、非常口からやっと中に入
 りてもらうことができました。
 声を束にすることは大切なことです。一人
 が言うだけでは届かない意見も、みんなが声
 を合わせると、それが大きな力になり、
 無視できない影響力を持つことに繋がるから
 です。そして、声を上げる権利を誰もが保証
 されることこそ、民主主義の根幹だとも思い
 ます。私は民主化を求めた香港のデモを否定
 するつもりはありません。けれどもあの体験で
 分かったことがあります。それは、暴力的な
 言動は、たとえそれがどれだけ正しいことを
 訴えていたとしても、目の当たりにした人は

恐怖で声を失ってしまうという事です。
 これは香港のデモに限った話なのでし
 か。私は最近スマートフォンを手にするよ
 うになつて、インターネットやSNSとの向き合
 い方を家族で話し合うようになりまし
 して「炎上」と言う現象について考
 えるた。あの時と同じ恐怖を感じず
 にはいられません。ある事柄に
 対する批判的な投稿が重なつてい
 き、多くの人が見聞きできるまで
 拡散されていくと、当初は真
 当な批判であつたとしても、その
 投稿の中に憂さ晴らしか思
 い、誹謗中傷や、歪んだ正義感
 を押し付ける暴言たちが紛れ込
 んで、燃え上がる。当事者や
 閲覧した大勢の人の中に、自
 ら意見を発信することを諦
 めるようになる人がいたと
 しても、不思議な事ではないと
 感じました。ところで、香港
 のデモには最大で二百万人が
 参加していましたが、ある
 新聞記事によると暴徒化した
 のはその一部で、五

六千人程度だという見
 立てが紹介されてい
 ました。炎上に関連した
 ある企業への誹謗中
 傷についても検索して
 みると、裁判で大量の
 投稿を数名の人間だけ
 が行つていたことが明
 らかになつた。一部の
 人の自分ばかりを振舞
 けてきた。全体の印象
 を塗り替え、少なく
 ない人を傷つけ、声
 を奪つたのだと知り
 ました。調べたことを
 家族で話し合う中で、
 一つの気づきを得まし
 ました。何かを感じて
 表現するとは自然な
 ことだけれど、特に
 負の感情を口や行動で
 示すという事は、暴
 力に限らず、たとえ些
 細な発言でも、いい
 ねを押し付けること
 であつても、それは何
 かを変えてしまふ
 力があるのです。変
 えてしまふのは、相
 手との関係がもし
 壊れれば、周りの人
 の考えも壊れま
 せん。自分自身の心
 が壊れれば、暴走し
 やすいのではないかと
 考えました。私
 たちは何に気をつけ
 らなければならない
 のでし





心の対話

大阪教育大学附属池田中学校 2年 ^{ふなびき}船曳 ^{りか}里花

心の対話
大阪府 大阪教育大学附属池田中学校 二年 船曳 里花

みなさんは自分を透明人間のように感じることがありますか。すぐそばにいるのに一緒にいないような、声は聞こえていないはずなのに見られていないような、そんな経験はありませんか。

普段友達と一緒に話している時、友達だけがスマートフォンを触り始めることがよくあります。そうなるとしもうと会話は止まり、話しかけても「なんて？」と言われたり曖昧な返事を返されることが増えます。遊びに行ったりした時なども、カラオケで別の人が歌っている時はスマートフォンを見ていたり、遊園地の待ち時間ではあまり話すことなく全員がそれぞれ普通に画面を見つめているということがあります。せいかく一緒にいるのになあと思ったり、もうその人は、別世界に行っちゃったかのような気がします。

私はそんな時に自分が透明人間のように感じます。本当は隣にいるのに、心の距離だけがうんと遠いような、そんな感じがしてしまいます。悲しむとも怒りとも違う、今私は誰にも見えていないのではという不思議な気持ちになるのです。

私の親友は普段スマートフォンを触りませんが、会話する時はいつも私の目を見て話してくれます。このように、お互いに目を見て話しているとき、言葉の重みは大きくなると思います。同じ会話でも全然心の距離が違うように感じます。目を見て頷いたり相槌を入れたり話してくれれば、心と心がかつなぐことができるような感じがして嬉しくなります。それを人は「対話」と呼ぶのではないのでしょうか。会話という単なる言葉のやりとりではなく、相手と向かい合って話すこと、目を見て心で話すこと、か「対話」なのだと思います。

今日、スマートフォンがあることによっても私達の社会は非常に便利になり、大きな発展

を逃げてきました。コロナ禍で外出があまり
できないか、た時、私達はスマートフォンに
よって心をつなげることができました。今現
在でもインターネット上のチャットによつて
遠く離れていても心の距離を縮めることがで
きます。またそれだけびなく、さまざまなか
つとを調べることで情報を得たり、動画を視聴
したりすることで娯楽を感じたりすることが
できます。
しかし、それによつて人と人の心の距離が
遠ざかっているのも事実だと思っています。ど
にいても話せるからこそ、一緒にいる時に話
せられないのではないでしょう。現代では
目の前に友達がいるのに相手の目ではなく画
面を見こましていることが増えてきている
と思います。
私は生徒会長をしているのですが、生徒会
にはスマートフォンでの許可をして欲しいとい
う要望が多く届きます。私も許可できたらいい
なと思います。そうしてしまふと学校が

勉強する場所がなくなつてしまつたり、授業
とのメリハリがつけにくくなつたりしてしま
います。何より、友達との交流が芯のあるも
のではなくなつてしまふと思ひます。せ、か
く直接会える場所があるからこそ、私自身と
の関わりや対話を増やしていきたいです。
最近開催された大阪・関西万博では未来を
感じるパビリオンが多くありました。バーチ
ャル社会など、今までは映画のようだったこ
とがかもう現実になろうとしていゝのです。そ
うなつていくことでより便利になり、外出が
困難な方々や遠くに住む方々にとつてもより
身近な社会になると思ひます。しかし、対面
で活動することの減少によつて対話すること
が減つてしまふでしょう。対話はこれからの
社会でも大きな課題になると思ひます。
みなさんの周りに透明人間になつてしまふ
ていゝ人はいませんか。心は見えませんが、
相手の目を見て話すと心は繋がります。本当
の感情に訴ゑることが出来ます。インターネ

ト上で整えられるからと言って、相手を見ないで話しても、それは対話にはなりません。相手の目を見て話すことで人と人、いや心と心の本当の対話ができるのではないでしょう。中学生である私は、相手との対話を意識して学校生活を送っていきたいです。そして、相手を大切にできる温かな社会を創っていきたいと思います。今からあなたも画面ばかり、下ばかりを見て話すのではなく、一度前を向いて、相手の心を見て話してみませんか。



心の余白

清風南海中学校 2年 ^{さかえ} 榮 ^{あんり} 杏里



心の余白
 私立清風南海中学校 二年 榮 杏里

私は幼い頃から人に迷惑をかけてはいけ
 ないよと教えられて育ちました。そのため
 まわりの友達や先生にできるだけ迷惑をかけ
 ないように、真面目に行動しようと自分なりに
 努力してきましたつもりです。

ですが、本当の私はそんなにも真面目で器
 用なタイプではなく、しんどい事や大変な事
 に直面するとできるだけ楽な方へ逃げようと
 してしまいう弱い人間です。でも、それでは
 んなに嫌われてしまうのではないかと思い、
 ふるまいに気をつけてきました。自分のため
 な所を見せて誰かに迷惑をかけることは、
 良くないことだと思っていたからです。

でもある日、この言葉に出会ったから、私
 の考え方が少し変わりました。

日本では人に迷惑をかけてはいけなさと教
 え、インドでは、あなたは人に迷惑をかけ

て生きているのだから、人のことも許して
 あげなさいと教えられる。

私はこの言葉を知って、とても驚きました。
 ずっと迷惑をかけてはいけなさと生きて生活
 をしてきたので、迷惑をかけることを、
 悪いこととして受け入れるなんて考えた
 こともなかったからです。

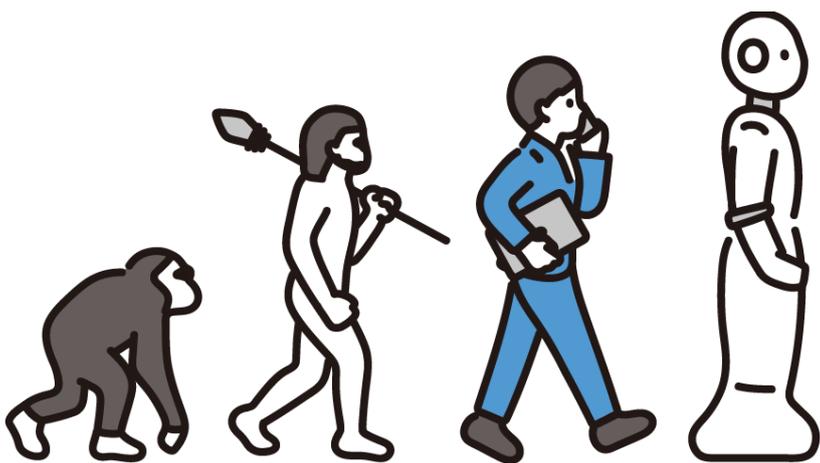
では、私達は本当に人に迷惑をかけずに生
 きていくことができるのでしょうか。

よく考えてみると、私自身も毎日色々な人
 に助けられているから生きています。朝、家
 族が作ってくれた朝ごはんを食べ、通学中は
 電車の運転手さんに最寄り駅まで運んでもら
 っています。学校に着くと、友達に忘れ物を
 貸してもらったり分らない勉強を先生に教
 えてもらったり。生きていると、誰かの時間
 や力を知らず知らずの間に使っています。つ
 まり、どんな時でも自分一人では何も成り立
 たないのが現実です。そう考えると、迷惑を
 一切かけずに自分の力だけで生きることは

ほとんど不可能に近いことだと思いましたが、
 それでも特に私達日本人には、「迷惑をか
 けてはいけない」という考えが根づいてしま
 っているような気がします。だから私も誰か
 に頼って助けをもらうことに何となく申し訳
 ない気持ちを持ってしまい、その度に「ごめ
 んね」「と言っただけで済ました。「ごめん
 ね」「より「ありがとう」と言えた方がす」と
 素敵なのに。
 迷惑をかけてはいけないと思いつぎると色
 んな事が制約されてしまい、息苦しく感じて
 しまう時がある事に気がつきました。そして、
 自分が迷惑をかけることを怖がっていると思
 った時に助けを求めるときもできなくなっ
 てしまうのです。でも、人は迷惑をかけること
 ももちろんあるけれど、それを許し合うこと
 もできる。と考えるようになったから、私は
 少しずつ自分の作った殻をやぶり、本当の弱
 いだめな自分も見せられるようになりまし
 た。もちろん何でも人に頼っていいという訳で

はありません。わざと迷惑をかけるような行
 動も良くないと思います。まずはどんな事でも
 自分自身で解決できないかと、一呼吸おい
 て考える時間も大切ですよ。私達は完ぺきな人
 間ではないので、どれだけ気をつけていても
 誰かの気持ちに気づけない時や相手の負担に
 なってしまう時があります。だからこそ、ど
 んな事でも「これは絶対にこうだ!!」と決め
 つけてしまうと、とても生きづらくな。てし
 まう気がします。自分の意見や考えは持ちな
 がらも、自分とは違う考えも受け入れて認め
 てあげられる人になれたらいいな、と思いま
 す。
 これからも私はできるだけ人に迷惑をかけ
 ないようにまずは自分で努力しようと思いま
 す。でも、それと同じくらい人のことを許せ
 る自分になりたいと思います。
 誰かが困っていたら気づいてあげられる人
 に。
 すぐに「助けられるよ」と言える人に。

そして、可迷惑をかけちゃってごめんね。
ではなく、可助けてくれてありがとう。と言
える人になりたいです。
お互いに支え合い、助け合いながら生きて
いける優しさのある社会へ。その第一歩は、
可迷惑をかけてもいいんだよ。と、私のよう
に実は不安な気持ちを持って、いる誰かを受け
とめる。可心の余白が大切なのではないか、
と私は思います。



「書く」で伝えるわたしのきもち

高槻中学校 3年 ^{はなわ}花輪 ひなた



七月二十九日、当時単身赴任していた父に勧められたとき第一にわいた感情は、正直「面倒な。」というものだ。しかし、書きすすめようちに伝えたいことが増え、最後は反省文の欄の狭さに苛立ちすら覚えていた。一体なぜだろうか。それはきっと他人のために文を書くことの大切さ。SNSの普及に違いない。今日において、SNSの普及により他人のために文を書く機会も着実に増えている。そこで私は声を大にして言いたい。『今一度、他人のために文を書くことと向きあってみてほしい。』と。

小学四年生の夏。私が中学受験にむけての勉強を始めて数か月。ストレスが溜まり、家族とのすれ違いが大きくなってく頃であり、

大阪府 私立高槻中学校 三年

花輪 ひなた

められ、交換日記を始めた。どんなに些細なことでもいいと事前に言われていたにも関わらず、一ページ目から私は行きづまっていた。自分で言うのも何だが、当時の私は国語が得意で、設問を解くのに苦勞したことはなかった。だからこそその時に受けた衝撃は今でも忘れられない。なんだか悔しい気持ちを抱えたまま、一度目の交換日記を迎えた。そこには父が私に交換日記を勧めたわけが書かれていた。

『大きくなったら、自分の言葉で何かを伝えなきゃいけない機会が増える。だから自分で考えたことを人に伝えろ練習してほしい』と思っただ。

父のこの言葉と、私が私自身の未熟さを痛感したとき。この二つの経験が私の心の中に、他人のために文を書くことの大切さを刻み、最初にして最大の原因だった。

次第に日記を書くことに慣れ、私は一つ疑問を持っただ。

「合意形成ができる授業」を創るために

泉大津市立誠風中学校 3年 頭師 惟介



「合意形成ができる授業」を創るために
 大阪府 泉大津市立 誠風中学校 三年
 頭師 惟介
 私は誠風中学校で生徒会本部役員、ルール
 ×イカーを経験してきました。その中で、「学
 校とはどんな場所か」ということを考え、機
 会があり、私は「人との関わり方を学ぶ場所
 と考えました。なぜなら勉強は塾でもできる
 し、「人との関わり方を学ぶ」ほうが将来仕
 事に就く時、必要だと思っただけです。
 ですから他の生徒会メンバーには「班活動は時
 間の無駄」という考えを持つ人もいました。
 それは「やる気のない人に教えたところで
 何も変わらないうし、どれだけ自分が頑張っ
 ても評価されるのは班で、何もしてない人が
 評価されるのは嫌」というものでした。本当
 にそうでしょうか。
 ここで皆さんに質問です。学校は何を学ぶ
 ための場所でしょうか。そのために先生はど
 うな授業にするべきでしょうか。私たち生徒

は、何を意識するべきなのでしょうか。私は
 学校を「人との関わり方を学ぶ場所」にする
 ために、「合意形成ができる授業」にしてほし
 と思っと思っています。そして、私たち生徒は合意
 形成をするために、まず自分の班活動での能
 力や重要性を見直すことを意識すべきです。
 初めに、「合意形成」を大切にしてほしい
 と思っ、たきっかけについて話します。私は誠
 風中のめざす生徒像である「自律」「尊重」
 「創造」について考え、授業を通してつけた
 り力に「ルール×イカー」と先生と話し
 合いました。その中で、生徒や先生との違
 視点からの意見が飛び交い、合意形成をして
 一番良い答えを出すことは、とても良い経験
 になりました。そこで「合意形成」という言
 葉を知りました。合意形成は意見が食い違
 っているときに、互いの意見や立場を理解し
 納得のいく形で意見の一致を回す過程のこと
 です。そして、合意形成をすることで、「人
 との関わり方の大切さ」や「人な視点から物

事を考えることができない。合意形成を経験し
 た強みを知ることができました。では合意
 形成はどの活動で経験できるのでしょうか。
 一番身近な例で言うと、班長会議や班活動で
 も経験する機会はあると思います。ですが、
 先程出てきたような生徒会メンバーのよう
 な考えもあると思います。それは、やる気
 がない人が他人任せでいる。ということが原因
 だと考えます。確かに、やる気のない人がい
 ると、自分のモチベーションも下がり、周り
 の士気が下がります。ではどう意識したらそ
 うい。たやる気のない人を少なくし、合意形
 成できる環境にできるのでしょうか。
 まず私は、一人ひとりが意識することとし
 て班や周りの人に迷惑をかけないようにする
 こと。次に、集団の中の自分の存在の大き
 さに自覚を持つこと。そのためには相手を認
 める必要があります。また、やる気が起きるよ
 うに、少しでもやってみる。こうすること
 ことで、やる気はなく、班活動に参加しない人

も減るのではないのでしょうか。また、失敗し
 たりすることはあると思います。そういうと
 きは自分の失敗を認め、謝ることが他者との
 協働の中で肝心です。その際、なぜ失敗した
 のか振り返ること。次回失敗しにくくなりま
 す。成功したときは、みんな喜んでしまし
 ます。そして、なぜ成功したか考えましょ
 う。成功した経験も忘れないこと。何回も成功する
 ことができません。それらのことを意識するこ
 とで、学校だけでなく、社会でも通用し、こ
 のような考えを全員がもつことで、社会全体
 も良くなるでしょう。
 学校は、社会に必要なスキルや能力をつけ
 るための場所でもあり、協調性を学ぶた
 めの場所でもあります。もちろん、社会で
 必要だと思う能力やスキルは人それぞれです。
 班活動をする時にその考えが食い違い、うま
 くいかならないことがあるかもしれませ
 ん。そう
 いうときは話し合いましょ。班活動は人と
 関わり、合意形成を図る機会です。会話をし

相手のことをよく知りましょう。
先生方、私たちは未来を創る主人公です。
社会に出て、より良い社会を創っていくため
には、合意形成は必要不可欠な能力になるで
しょう。もっとなりの関わりを持ち、合意形
成できるような授業を一緒に創っていきましょう
んか。



き、自分の話を否定されたことが、誰でもあ
 ると思います。嫌な気持ちになり、自分
 が思っていた返答でなくモヤモヤした気分にな
 なることがあるのではないのでしょうか。しか
 し、否定をすることは悪いことばかりでもな
 いと思います。もし自分が誤った考えに基づ
 いて発言をしていたら、その事を誰かが否定
 してくれることで、正しい考えを持つことが
 できます。それに、他人の意見を新たに知る
 ことができ、自分の考えを広げることもでき
 ます。つまり、物事や人の意見に対して否定
 するときは、自分の考えや意見を持つて否定
 するべきだと思っています。ですが、否定ばかり
 していても何も前に進まないのので、自分の意
 見も持ちながら、他人の意見にも共感してい
 くことで、より良い方向に進んで行くのでは
 ないのかなと思います。自分の意見が正しい
 人は、思いがちですが、そうではなく、反
 省すべき点や改めらるべき点もあると思いま
 す。

めて欲しいと思う承認欲求なのではないでし
 ようか。承認欲求は誰にでもあるものです。
 それを、自分で考えコントロールすること
 より良い意見や考えがたくさん生まれること
 に繋がるのではと思います。
 こうして私が書いている作文の内容も、承
 認欲求なのかもしれません。私も、知らない
 間に自分の意見を強く言い過ぎていくかもし
 れないなと改めて実感しました。自分の意見
 をたくさんの視点から見つめ、考えを広くし
 て、発言をすることが大切だと思っています。